

暗闇の中でホタルのように光るキノコ「シイノトモシビタケ」が、和歌山県すさみ町の森に生えているのを、阪南市の田原幸子さん(78)が撮影した=写真。

湿度の高い時期に、シイの倒木などに生えるキノコで、かさの直径は1~2㍍ほど。暗くなると淡い緑色の光を放ち、「森の妖精」と呼ばれる。

田原さんは今月2日、夫の敬夫さん(81)とすさみ町の花の森へ出かけ、デジタルカメラで撮影した。

フィルムカメラが趣味だった2003年にも同じ場所でシイノトモシビタケを撮影し、朝

「森の妖精」
ともしび傘

日新聞に掲載された。今年6月30日付朝刊で、神戸市の六甲山で撮影されたシイノトモシビタケが載っているのを見て、再挑戦しようと考えた。

田原さんは「十数年ぶりにカメラを使ったが、ほやっと光る雰囲気そのまま撮影できた」と喜んだ。(川田惇史)

